

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0472200286
法人名	有限会社 朋悠生活研究舎
事業所名	グループホーム ゆう柴田
所在地 (電話番号)	宮城県柴田郡柴田町剣崎2丁目4-3 (電話) 0224-58-2812
評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 20 年 10 月 29 日

【情報提供票より】20年9月30日事業所記.)

(1)組織概要

開設年月日	平成 12 年 9 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 6 人、非常勤 3 人、常勤換算	8.4 人

(2)建物概要

建物形態	併設/○単独	○新築/改築
建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,500 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有(円)	○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,100 円		

(4)利用者の概要(9 月30日現在)

利用者人数	9 名	男性	5 名	女性	4 名
要介護1	4 名	要介護2	2 名		
要介護3	1 名	要介護4	2 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 80 歳	最低	70 歳	最高	94 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	乾医院 , 飯淵歯科医院 , 総合南東北病院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道4号線や旧国道白石柴田線の程近く、買物に便利な大型スーパーのある場所にグループホームゆう柴田がある。周辺は、新興住宅地として真新しい住宅が建ち並び、ホームの目の前には広い公園があり入居者の毎日の散歩コースとなっている。先日町内会主催の運動会がこの公園で開かれ入居者全員参加で応援し、一人の入居者は玉入れに加わり景色を貰い喜ばれたという。その後婦人部の方々の炊き出しでも煮会となり、皆で頂いたとの事である。管理者は、住宅も少しずつ増え運営推進委員も近くにおり、地域との関係も良くなりつつあるとしている。居間兼食堂の目のつきやすい位置に「ゆっくり いっしょに たのしく」の文字が掲示されており、このホームの核となっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>改善項目は①推進会議に自治会長さんの参加を再度要請する。②重度化に伴う意思確認書を作成し方針の統一を図る。であった。①は、運営推進会議が2ヶ月に1回の割合で開催されており、地域住民の代表も委員に加わった。②は、重度化に伴い本人や家族、職員等と話し合いはしているが、方針の統一を図る努力をお願いしたい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員は評価の意義を理解しており、夜勤時等に数日かけて全員参加で取り組んでいる。作成してみても日頃のケアを振り返るいい機会となった。改善点については、事業所の出来ることから早急に見直しを行っている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は8月に第2回目が開催され、柴田町役員、地域住民代表、入居者、家族と、ホームから3名の計7名の委員が参加した。討議内容は、年間行事や災害、地震時の避難訓練について報告がなされ、委員から質問、意見、要望等出され、行政からの助言もあり双方向的な会議となっている。今年度からは地域住民代表者も加わったの会議となり、地域密着型としての目的は果たされている。10月22日には、3回目を開催し出席者は少なかったが事業所の報告等議事録に記載されていた。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>面会時や電話などで意見や不満、苦情等は聞き入れるようにしている。尚、家族が気軽に意見や苦情、要望等を相談できる窓口として、事業所や行政以外の第三者委員を委嘱していただき重要事項説明書に記載すると共に、折りに付け家族への説明を繰り返してほしい。また意見箱等の設置もご検討いただきたい。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会や町内会に加入し、地域の婦人会(防災等)の会合にも出席している。町の運動会には入居者全員が参加し楽しまれたり、地区の子供会が行っているお祭りや七夕の際には、ホームに立ち寄りお茶を飲んで頂くなど地域との交流を図っている。また公園を利用している方へのトイレ使用はホームを提供し気軽に利用していただける雰囲気となっている。災害対策の避難訓練時の地域住民の応援依頼は運営推進会議等で協力を求めていくとしている。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念として平成12年に作られた「人としての尊厳を守ります」に加えて、昨年度地域密着型サービスとして見直しを行い「地域の一住民として地域との関わりを深めていきます」を取り入れ、地域と関わりをもち柔軟に支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員は理念を共有しており、日常生活の中で機会あるごとに地域との繋がりを大切にし、実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会や町内会に加入し、婦人会の会合にも出席している。町の行事(運動会、公園の除草)等に参加したり、地区の子供会のお祭りや七夕の帰りに、お茶を飲んで頂くなど地域との交流を図っている。職員の家族により町で奨励しているダンベル体操の指導やワックス掛けなど協力をいただいている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義は理解しており、自己評価は夜勤時等に数日かけて全員参加で取り組んでいる。改善項目については改善シートを作成し職員間で話し合い出来る事から早急に改善している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議は2ヶ月に1回の割合で開催され、今年度から地域住民代表も委員のメンバーに加わっての会議となり、地域密着型としての目的は果たされている。討議内容はホームからの報告がなされ、参加者の意見や要望等を取り入れ、行政の助言もあり双方向的な会議となっている。議事録の記載もある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の担当者は推進委員のメンバーでもあり顔馴染みとなっており、運営上の問題や疑問が生じた時等アドバイスを頂いてサービスの質の向上に活かしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族会は無いが集まってくださる回数が多い。月1回のホーム便り「ゆうしばただより」を発行しており、行事やお誕生会、外食時の様子などお知らせしている。また職員の担当者は個別に同居者の生活状況を「便り」と一緒に報告している。なお職員の異動については、その都度お知らせをお願いしたい。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話等で意見や不満、苦情等を聞き入れるようにしているが、今のところ苦情はない。家族が気軽に相談できる窓口として、事業所や行政以外の第三者委員も委嘱し、重要事項説明書にも記載している。その事を折に触れ家族への周知していただきたい。また、ホーム内に意見箱も設置している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	同居者のダメージを最小限に抑えられるように、退職者が分かった時点で出来るだけ早いうちから新職員に勤務に就いて顔見知りになってもらい、混乱のないように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員育成の為に出来るだけ研修に参加してもらい、研修後は報告書を義務化し回覧をして、定期ミーティングで研修内容を説明し職員間で共有している。事業所はケアマネジャーの更新時には費用を負担するなど配慮している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のNPOグループホーム協議会に加盟し、積極的に研修に参加している。また町の南ブロック研修会(四つのグループホームで作る)は、年2回(夏、冬)開催されるが、夏の実践報告会に出席して交流を図り、情報交換の場ともなっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心してサービスを利用していただく為に、ホームの見学をしてもらい入居者と一緒にお茶を飲むなど交流を図っている。また入居当初は家族の協力を得て、度々ホームに来ていただき徐々に馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑作りでは人参の種は踏みつけるとよく育つとか、昔の遊びなど教えてもらう事が多い。また手摺の掃除は職員の後につづいて入居者皆で拭いている。カラオケや将棋、五目並べ等職員も一緒に行い、楽しみながら支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	東京センター方式を導入しており、その人の思いや意向、生活歴等アセスメントで把握している。また毎日の生活の中で入居者の会話から情報を得、家族に意見を求めてミーティング等で検討し日々のケアに活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアカンファレンスは月に1回行っており、日々のケアの中で本人の思いや希望、また家族の要望や主治医の意見等を反映させた介護計画となっている。家族アンケートからは全員が介護計画の説明を受けていることがうかがえる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回介護計画の見直しをしているが、本人の状態に変化が生じた場合は、その都度計画を見直し家族に報告をして同意を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や理、美容院等家族が付き添いの出来ない場合は、個別のニーズに合わせて柔軟に対応している。ショートステイ希望者には状況に応じて支援の意向はあるが、現時点では待機者もおり難しいとしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族は入居前から受診しているかかりつけ医を希望しており、その意思を大切に考え必要な医療として継続できるように支援している。またホームの協力医とも連携がとれ、往診してインフルエンザの予防注射を行っている。訪問歯科医は親切で良き助言者となっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りまではいかないが、経験のある職員の体制もできており、その時の状況に応じて本人や家族、医療関係者等と繰り返し話し合いをしている。重度化した場合でもホームで継続して生活ができるように、早期から関係者の話し合いの基本となるターミナルケア指針に基づいて説明し、入居者本人の意思も確認している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導等はその人の自尊心を傷つけないように支援をしている。記録や個人情報の取り扱いは十分に配慮し、鍵付きの書棚に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者同士(男性)が毎日の日課となっている散歩コースを1日に何度も出掛けたり、入居者から買物の誘いがあった時は職員も一緒に出掛けている。また夏は早朝から起きて過ごされていたり、寒くなると起床時間も遅くなるなど、一人ひとりの生活リズムに合わせた支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	基本的には食材は宅配業者の献立に沿ったものであるが、不足がちな野菜の買出しや、料理に参加したり食器の後片付け・茶碗拭きなど男女共に手伝ってくれている。食事は職員が入居者と一緒に加わり楽しみながらゆっくりと摂られていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は一人ひとりの希望にそって支援をしており、入浴を拒む方には無理じいせず誘導に工夫をして、再度声がけするなどして対応している。今のところ夜間での入浴希望者はいない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の生活の中で張り合いや喜びをもって過ごせるように、洗濯物干し、たたみ、食器の後片付け、掃除、カラオケ等職員と一緒に楽しみながら行っている。また月1回の楽しみ事として外食を取り入れており、気晴らしの支援ともなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の散歩や、買物、外食、ドライブは、丸森のひまわり畑や遠刈田温泉の足湯そして村田方面等その時々に応じて出来るだけその人の希望に沿って外出できるように支援している。入居者は玄関前にある椅子に腰をかけ、日向ぼっこをしながら公園で遊ぶ子供の様子などを楽しまれていた。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関や居間の窓等の鍵は施錠されておらず鍵をかけないケアに取り組んでいる。職員は入居者の行動を把握しており、見守りで対応をしている。町の実施指導もあり玄関にはセンサーが取り付けられていた。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練(災害時、地震等)は年2回消防署や地域住民の立会いのもと実施し、その内の1回は夜間を想定して行われ約7分程かかった。対応マニュアルは整備されており、備蓄も一緒に点検している。今後は運営推進会議に働きかけをして地域住民の協力を得られるようにしたいとしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の栄養摂取量をチェックし、水分量は本人の湯のみやカップ等を使ってチェックしており、1ヶ月に1回体重測定を行い、入居者の健康を管理している。食材は宅配業者を利用しカロリー計算もされているが、不足がちな野菜を購入するなどバランスを考えて食事を提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼居間には、振り子時計が見やすい場所に設置され、手作りの大きな日めくりカレンダーは入居者の目の付きやすい位置にあった。廊下は回廊となって明るく、中庭に色々な小菊が可愛らしく咲き、食堂にも飾られて季節の香りが漂う居心地の良い共用空間であった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得て使い慣れたベットやダンス、TV、ラジオ、写真等馴染みの物を持ち込まれ、明るく整理の行き届いた居室となっていた。		